

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	270201064		
法人名	社会福祉法人伸康会		
事業所名	グループホームふれあい		
所在地 (電話番号)	〒036-8381 青森県弘前市独狐字石田172-1 (電話) 0172-95-3000		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 10月 25日	評価確定日	平成 19年 12月 5日

【情報提供票より】(平成 19年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 8月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤 22人, 非常勤 人, 常勤換算	21.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	3,600 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,380円		

(4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	25 名	男性 4 名	女性 21 名
要介護1	2 名	要介護2	9 名
要介護3	11 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	81 歳	最低	58 歳
		最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三上内科医院・松野歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設は雄大な霊峰岩木山を背に、広大な林檎畑に囲まれた、閑静な市街地に位置し、環境が情緒の安定に寄与する部分も大きい。職員はグループホームの理念を良く理解しており、入居者の生活のリズムに合わせ、落ち着いた雰囲気の中で個性を大事にした援助を行っている。3ユニットが各リ-ダ-を中心に、学習意欲が高く、ホ-ム内で毎月開催している学習会の他にも、外部研修へ積極的に出向いたり、救命講習を職員全員で受講する等資質向上に前向きに取り組んでいる。母体の老人保健施設が隣接しており、地域交流や日常的な協力体制があり、入居者の状態変化への対応や、生活全般の安全が確保されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	状態急変時の対応が課題とされていたものの、普通救命講習・上級救命講習を全員で受講し、心肺蘇生について学んだ事により、職員の不安も少なくなり、対応姿勢が改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニット会議で全員が意見を出し合いながら自己評価を実施、ユニットリ-ダ-や管理者は、振り返りや職員自らの気付きの視点を高めるように促している。改善案や具体的な援助内容については、早期に現場に反映されるよう、管理者との連携も密に行われている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議参加メンバ-より、無断外出があった場合の探索協力体制をスム-ズにする為、顔写真の用意について提案され、職員以外でも解かるように、フェイスシートに添付している。又、単身で外出する入居者について情報を提供、近隣住民との付き合いと同様に声を掛け合ったり、生活の中で自然な形で見守りが行われるよう協力を求め、実践されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)
	面会の機を捉えて情報提供に努める一方、気軽に意見を言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。又、外部の相談窓口についても紹介している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	母体の老健施設を中心に地域交流が行われており、納涼祭に参加してもらったり、地元の保育園の行事やねぶた祭りに参加している。又、地元商店を利用する入居者もあり、地区住民の一人として自然な流れで交流が行われている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念をベースに、全職員で話し合い(その人らしい生活を大事にする)というホーム独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の意見が反映された理念であり、日々の生活の中で生活全般の支援体制として実践されている。また、理念を施設内に掲示し、対外的にも確認出来る環境にある。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の住民には納涼祭に来てもらい交流している。保育園の行事を見に行ったり、地域のねぶた祭りに参加している。しかし、併設の老健が地域とのつきあいの中心となっている為、ホームでの取り組みが少ない。		その地域の一員として必要とされる地元の活動や交流に関わり、地域の高齢者のケアサービスの向上へ向けて事業所の知識や経験を活かす取り組みを期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>各ユニット会議で自己評価について全員で話し合っている。外部評価についても改善点について振り返り、前向きに取り組んでいる。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議には町会長や民生委員、市の担当職員に参加してもらっているが、利用者家族の参加が少ない。</p>		<p>家族に会議の目的・意義を理解していただき、入居者との関わりを継続・維持しながら、参加が確保されるような働きかけを期待します。</p>
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者とは隔週で定期的に連絡を取り、状況報告や意見・情報交換が行われている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度を利用されている方が3名おり、法人全体で制度に関する勉強会を開催して全職員学んでいる。しかし全職員が制度を理解するまでには至っていない。</p>		<p>学ぶ機会をつくっているが、まだ全職員が理解し説明出来る状態には至っていないようです。引き続き勉強会を開催し、必要な時に利用に繋がられる体制を整備する事を期待します。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部研修を行い、虐待防止に対する意識統一は出来ており、実際、虐待の場面も無いものの、職員間の確認項目として、明文化されたものが無い。</p>		<p>事業所内での対応方法を明確化し、いつでも職員が虐待防止について確認出来るようにマニュアル作りに取り組む事に期待します。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約時に、利用者及び家族に対し、生活の状況や状態の変化が考えられる将来の事も含め丁寧に説明している。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>金銭出納帳は面会時に確認してもらっている。ホーム便りを作っており、紙面の写真は利用者に合わせて載せ変えて家族へ送っている。電話での連絡も行っている。</p>		<p>出納帳と領収書は保管を一本化し、出し入れが明確に解かるよう整備される事を期待します。又、家族が確認した際はサインをもらう等チェックされている事を視認出来る体制が望まれます。</p>
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>気軽に意見を出してもらえる環境づくりに努めている。言いにくい場合は外部の相談窓口を勧めており、玄関にも掲示している。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>同敷地内での異動があり、決定した場合は、事前に顔を見せに来てもらい、徐々に利用者へ馴染んでもらうようにしている。異動して行った職員へも、時々グループホームから出向く場面を設け、交流が継続出来るよう支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修は、管理者の指示で参加する以外にも、掲示された研修案内を確認して希望者は自由に参加している。受験資格のある職員には、介護福祉士や介護支援専門員の資格取得に向け、法人全体でバックアップしている。又、毎月グループホーム独自にテーマを設定して勉強会を開催している。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人施設との交流があり、施設訪問や宿泊体験、意見交換・親睦会活動を行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスや老人保健施設を利用していた方が入居に繋がるケースが多く、日頃から交流の場面を設定し、環境への適応をスムーズにするよう働きかけている。又、本人や家族から生活暦を細かく聞き取り、認知症の症状を誘引する事柄を把握し、落ち着いて暮らせるよう援助している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員には利用者と一緒に助け合い協力して生活しているという自覚があり、生活の場面で教えてもらいながら作業する事で関係づくりをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の会話の中から思いや意向をつかみ、フェースシートに書き込み職員間で情報を共有し、援助場面に反映させている。又、家族や本人との関わりの中から、生活歴の掘り下げを行うよう取り組んでおり、一人ひとりを全体像として捉える視点を強化し、現状の理解を深め、安定した状態の維持を支援している。</p>		
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎月のユニット会議で話し合い計画を作成している。家族には随時、家族等関係者にも必要に応じて相談している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>サービス計画は3ヶ月に一度、または退院時など状態が変わったときにその都度見直している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>退院時の状態に対応困難な場合、早期退院に向け併設の老人保健施設へ一時的に入居の形を取り、生活基盤が維持出来るよう支援している。外泊時に家庭での介護が困難な状況に陥った時は、職員が訪問し支援出来る体制が取られている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前の主治医との関わりの継続を支援し、本人、家族が希望する医療機関を継続して受診出来るようにしている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期には出来るだけ対応する意向であり、実際に協力病院から往診に来てもらいながら生を全うした方も居る。入居時や状態が落ちた時は、都度、本人・家族の意思確認を行い、援助体制について話し合い、実践している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の個性を重んじ、行動に対する制限も無く、柔らかな雰囲気の中で丁寧に接しており、生活共同者のようなさり気ない言葉掛けが行われていた。個人ファイルの管理についても、安易に人目に触れないよう配慮されている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームのスケジュールよりも本人のペースに合わせるようにしている。職員は入居者に合わせゆったりとした対応をしており、入居者も思い思いに時間を過ごされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事準備は各ユニットで行っており、入居者に調理の下準備や片付け等をしてもらっている。職員は入居者と同じテーブルについて、さりげなくサポートしながら食事を摂っている。日常の会話の中で利用者の好みを聞き出し、メニューへ取り入れており、嗜好に合わせて代替のおかずも用意している。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は基本的に週2回の設定になっているものの、好みで毎日でも入浴する事が出来、現在利用されている。夜間の希望は聞かれないが、今後希望があれば対応出来る体制にある。同姓介護を希望するか否かについても個々の希望に合わせている。各ユニットで浴槽の造りが違うの為、他ユニットで入浴したいという希望にも応じている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居者の生活歴や趣味・特技を活かして、一人ひとりが活躍できるような場面作りに努めている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>外出は各ユニットでそれぞれ対応しており、各人の希望を聞いて少人数で外出している。急な希望にも出来る限り対応するようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束研修に参加した職員の復命報告を全員で確認し、又、口頭でも報告会が行われ、マニュアルも作成されている。実際場面でも拘束は無い。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日常的に職員が必ずホールに居るように業務設定されており、目が届くようにしており、夜間以外は玄関の施錠も無く自由に出入り出来るようになっている。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>非常時の職員連絡網を作っており、連絡体制はある。併設施設との合同で、年2回消防署立会いの下、避難訓練が行われている。但し、地区の分団との交流は無く、グループホームそのものの内部構造や入居者の特性を理解した上での避難の実践には課題がある。</p>		<p>災害時に頼りになるのは近隣住民の力です。有事の際の協力体制を強化する為にも、日頃から地区分団との関わりを持ったり、法人として地区住民に防災委員を委嘱したり等の工夫が望まれます。</p>
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>グループホーム職員、また併設の施設にも栄養士が配置され、定期的に栄養面のチェックをしてもらっている。水分摂取量、必要に応じて食事摂取量の記録を執り、栄養の確保や状態の改善に繋げている。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>その時節に合わせた感染症の勉強会を全員参加で開催している。消毒液の使い分けも表にして注意するようになっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	随所に季節の花や植物が飾られ、椅子やテーブルも分散して配置されており、利用者は思い思いの場所で過ごしている。		リビングの側にトイレがあるが、カーテンだけで扉が無い。利用時の匂いや音など気にならないか確認していただき、環境の快適さに配慮されたい。
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローリングの他に畳の部屋も用意しており、希望に合わせて対応している。入居者の馴染みの物を持ってきてもらい、居心地良く過ごしてもらえるような環境が造られている居室もあるが、ベットだけの殺風景な居室もある。		入居者にとって落ち着ける空間であり、その人らしい居室作りが成されるよう環境作りに取り組みされたい。

 は、重点項目。